

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和6年11月29日

釧路市議会議長 畑中 優周 様

会 派 名 市民連合議員団

代表者名 板谷 昌慶



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受 命 者	板谷 昌慶、木村 勇太、宮田 団
出 張 先	松茂町、坂出市
期 間	令和6年11月10日～11月13日（4日間）
用 務	松茂交流拠点施設マツシゲートについて（松茂町） 坂出市中心市街地活性化公民連携事業について（坂出市） 坂出港の概要と今後の港湾計画について（坂出市）
調査（研修） 結果等の概要	別紙参照
備 考	

- 注） 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

会派道外視察 概要報告

期 間：令和 6 年 11 月 10 日～令和 6 年 11 月 13 日

出張先：松茂町・坂出市

参加者：宮田団、板谷昌慶、木村勇太

□松 茂 町：「マツシゲート」行政視察

□内 容：地域活性化および防災機能を兼ね備えた施設「マツシゲート」の現地視察

□担当職員：吉田直人町長、川田修議長、坂東絹代副議長、多田雄一局長 他 計 6 名

（報告担当：木村 勇太）

市民連合議員団は、2024 年 11 月 11 日（月）午後 1 時 30 分より、徳島県松茂町のマツシゲートを訪れました。

徳島県松茂町では、空港・高速バスターミナル・スマート IC が立地し、交通の要衝となっており、通過点でしかなく、外部からの誘客による経済効果や交流創出の機会損失が政策課題となっていました。こうした機会損失を回避するため地域外からの誘客を実現し、地域がにぎわい活気のある松茂町を実現するため、マツシゲートの整備を計画しました。また、松茂町地域防災計画において応急仮設住宅建設候補地としても位置づけられており、浸水対策として津波防護壁の整備が行われております。それらの取組について現在までの経緯をお話頂きました。

松茂町「マツシゲート」は、観光振興と防災拠点としての役割を担い、地域住民および観光客の交流促進を図る施設です。本視察は、同施設が持つ地域活性化のための取り組み、災害時に活用できる防災機能について実地で学び、わが町への応用可能性を検討する目的で実施されました。特に、「マツシゲート」が平時の地域振興と、災害時の支援拠点としての役割をいかに両立しているかを視察することが今回の主な課題でした。

「マツシゲート」は、松茂町が地域の観光活性化および防災拠点として開設した多機能施設です。平時は観光客や住民が楽しめる交流拠点として使用され、災害時には仮設住宅候補地や炊き出しスペース、救援物資の配布拠点など、様々な災害対応機能を発揮できる設計となっています。

- コミュニティスペース・カフェレストラン：全国各地の物産展が 2 週間ごとに開催され、地域の特産品を用いたメニューも提供。地域住民と観光客の交流の場として賑わいを見せています。
- クッキングスタジオ：料理教室や子ども食堂として地域住民に利用されるほか、災害時には炊き出しや緊急食事提供の場として機能します。
- コワーキングスペース：Wi-Fi や電源設備を備えたビジネス向けスペースで、リモートワークや会議利用も可能。地域内外からの利用者が多いです。
- 芝生広場：大規模なイベント会場として使用される一方、災害時には仮設住宅の設置候補地としても利用できる広場です。

松茂町は地域外からの観光客誘致や地域資源の活用に力を入れており、「マツシゲート」では特産品を用いた飲食物の提供や物産展の開催が、観光客の増加に貢献しています。また、施設内の飲食エリア

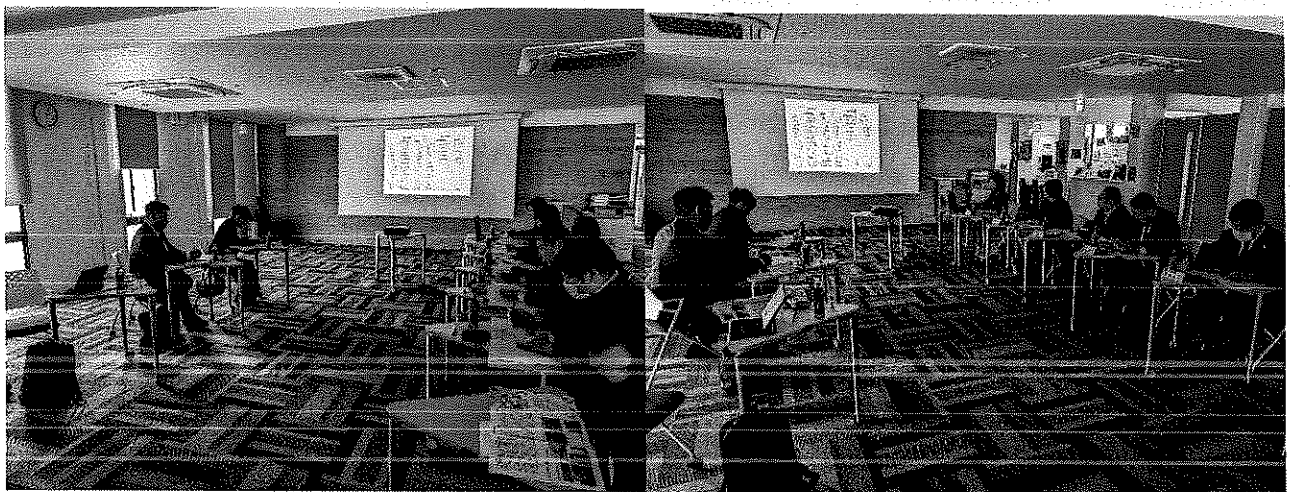
では地元の学生と開発したメニューも提供され、地域との協力関係が地域経済の活性化に役立っていることが確認できました。

災害時の活用を見据え、「マツシゲート」には仮設住宅設置が可能な芝生広場、炊き出し用のクッキングスタジオ、非常用電源や給水システムが備わっていました。これにより、災害時の応急対応として食事提供や物資支援が迅速に行える体制が整っていることが確認できました。

「マツシゲート」は地域活性化と防災機能の両方を兼ね備えていますが、さらなる集客を目指すためには、町内外の関係団体と連携し、施設の利用方法を多様化させることが求められています。また、防災機能を実際の災害時に活用するため、施設設備の維持管理や防災訓練の実施が必要とされることも指摘されました。

「マツシゲート」は、地域資源を活かしつつ、災害時に柔軟に対応できるモデルケースとして、他の地域においても参考になる取り組みでした。平時の観光・交流促進と災害時の対応が両立することで、住民や観光客の安心感を支える施設として有効であると感じました。今後、わが町においても観光振興と防災機能を持つ施設の整備や、地域内外の連携をさらに促進していくことが重要です。また、民間企業や地域団体と協力し、地域の活性化および防災に関するプロジェクトの推進体制を構築することが重要です。今回、学んだことを活かし、釧路市でもよりよい発展ができるよう今後の展望に向け大変良い勉強となる視察となりました。

以上を概要報告と致します。



はじめに 坂出市では、中心市街地の活性化を目的とした「坂出市中心市街地活性化公民連携事業」が進行中であり、同じく都心部市街地活性化事業を進めようとしている釧路市において参考とすべく視察をさせていただきました。本事業は、地域住民や市民活動の促進を図り、また坂出市の新たな顔となる公共空間を創出することを目指しています。行政視察の目的は、事業の進行状況とその実現可能性、また市民や地域社会に与える影響について理解を深めることとしています。



駅北口エリアの整備計画 駅北口エリアでは、「坂出らしさ」を感じる公共空間の整備が進められています。特に、坂出駅北側の広場と駅前拠点施設の整備に注力しており、以下の要素が特徴的です。

坂出駅北口周辺の広場と駅前拠点施設は、地域住民が歩いて快適に移動できるようデザインされています。高木を用いて駅前広場と施設を繋ぎ、全体を緑豊かな「みどりの器」として整備することで、駅周辺の空間が一体感を持って機能します。この計画は、地域住民の移動や交流を促進し、都市の魅力を引き出すことを狙いとしています。

駅前拠点施設の設計には、開放感と多様性が重視されています。施設内外は緩やかに繋がる設計となっており、吹き抜け空間やスキップフロア形式を採用しています。これにより、利用者は異なるフロア間で視覚的な繋がりを感じながら、開放的な空間を体験できます。また、施設の各階は「まちの魅力に出会う場所」「学びに出会う場所」「子どもの成長に出会う場所」というテーマで構成され、それぞれが多様な利用者のニーズに対応しています。

12.5 階には、図書館機能や学習室、多目的活動室が設置され、学びや交流の場を提供します。さらに、3~3.5 階には、子育て支援機能やこども図書館、プレイルームなど、子どもとその家族に配慮した空間が確保されており、多世代が集まることができる施設となっています。

市民アンケートやワークショップを通じて、地域住民が「やってみたいこと」や「自分たちでできること」を反映した施設づくりが進められています。また、市民活動団体やNPO、ボランティアグループと連携し、施設の利用方法や運営にも市民の意見が反映されるようになっています。これにより、施設が市民自身の手によって活性化されることが期待されています。

緑地エリアの整備計画 緑地エリアでは、既存の樹木を活用しながら、新たな空間を創出する計画が進行中です。具体的には、次のような要素が特徴的です。

既存の樹木は、市民と共に成長してきた地域資産として重要視されています。これらの樹木を可能な限り残しつつ、適度な間伐や剪定を行うことで、木陰を残しながらも開放感のある明るい空間を作り出しています。この設計は、市民にとって親しみやすく、利用しやすい場所を提供することを目的としています。

坂出市のシンボルである讃岐富士を模した芝生の丘を整備することで、緑地エリアに新たな象徴的な

景観を作り出しています。この芝生の丘は、子どもたちが自然の中で体力を育む遊び場として機能し、同時に地域住民の憩いの場となります。地形自体が遊びの場となるよう設計され、地域の魅力を引き出す役割を果たします。

緑地エリアには、市民活動を促進するための拠点施設が設置される予定です。この施設には、フレキシブルに使用可能なロビーや貸室が整備され、市民が自由に活動できる空間が提供されます。また、市民の自主的な活動を後押しするために、ハンドメイド商品の販売や産直ブース、フリーマーケットなど、地域住民が主導するイベントが開催されることを見込んでいます。

まとめ 坂出市中心市街地活性化公民連携事業は、駅北口エリアと緑地エリアにおいて、市民が集い、交流し、活動できる新しい公共空間を提供することを目的としています。駅北口エリアでは、多世代が利用できる施設が整備され、地域の魅力が引き出される空間が作られています。一方、緑地エリアでは、自然環境を活かした心地よい空間作りと市民活動の促進が進められています。

まだ計画段階であり、着工はこれからですが、市民の意見を積極的に取り入れたプロセスや、地域住民との協力による施設の運営方法が大変参考になりました。市民が自ら関わり、活用できる場所を作り上げるというアプローチは、今後の街づくりにおいて重要な要素であると感じました。整備後には、この地域がどのように変貌し、住民同士の交流が深まるのか、また、地域の活力がどれだけ高まるのか、今後の進展に期待しています。

以上を概要報告と致します。

□坂出市：「坂出港の概要と今後の港湾計画について」視察

(報告担当：板谷 昌慶)

令和6年11月12日(火)、坂出市において、「坂出港の概要と今後の港湾計画について」行政視察を行いましたので、報告いたします。当日は、港湾課 吉井課長に参加頂き、13:00～坂出市説明・質疑応答、15:00～港湾視察を行いました。

坂出港は香川県坂出市に位置し、瀬戸内海の重要な物流拠点として発展してきた。特に番の州地区では石炭、コークス、石油製品、LNGなどのエネルギー関連貨物、西ふ頭地区や中央ふ頭地区では麦や米などの穀物、金属関係の貨物がそれぞれ取り扱われている。

また、坂出港は江戸時代から塩の積出港として機能し、近代に入ると産業の発展とともに港湾設備が整備された。昭和以降は工業地帯としての役割を強め、石油化学や製造業の拠点としての地位を確立。1988年の瀬戸大橋開通後、本州とのアクセス向上により、さらなる物流の発展を遂げている。

現在、坂出港は四国と本州を結ぶ物流拠点港として原材料や工業製品の輸送が盛んであり、港周辺には製造業や化学工業の工場が多く立地している。しかし、近年は以下の課題に直面している。

- 港湾設備の老朽化：施設の改修や最新設備の導入が求められる。
- 物流の多様化への対応：コンテナ輸送の拡充やデジタル技術の活用が必要。
- 環境負荷の低減：脱炭素化の推進、再生可能エネルギーの導入。
- 観光・地域活性化：クルーズ船寄港の増加に対応し、地域との連携を強化。

共通点

1. 重要港湾である：地域の経済や物流の要所として機能。
2. 工業・エネルギー関連貨物の取扱い：釧路港は石炭や木材、食品、坂出港は石炭や石油関連製品、工業製品が中心。
3. 国内外の貿易拠点：国内主要港湾と連携し、国際物流を担う。
4. 自然条件の影響を受ける：釧路港は冬季の寒冷・風雪、坂出港は潮流や干満の影響あり。

共通課題

1. 港の機能強化と物流の効率化：コンテナ輸送の拡充や港湾設備の近代化。
2. 労働力不足と人材確保：自動化・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進。
3. 環境問題への対応：釧路港は自然環境との共存、坂出港は工業地帯の排出ガス・水質汚染対策。
4. 地域経済との連携強化：釧路港は観光・水産業、坂出港は製造業・エネルギー産業との協力が必要。
5. 気候変動への適応：災害対策やインフラ耐災害性向上。

釧路港と坂出港は、日本の重要港湾として物流・産業を支えている共通点がありながら、それぞれ異なる地理・産業特性を持つ。今後の発展には、物流の効率化、人材確保、環境対策、地域連携の強化が共通の課題として挙げられる。坂出港の視察を通じて得られた知見を釧路港の発展に活かし、両港が連携しながら情報共有を進めることで、より持続可能な港湾運営を目指すことが求められる。

